

東京凌霜謡会(2021年)の活動状況

2021(令和03)年

1月24日 新年早々の1月7日、諸都県の1都3県に2度目の「緊急事態宣言」が発出されました。宣言発出後2週間余が経過しましたが、新規感染者数は若干減少傾向にあるものの、重症者数・死亡者数・感染経路不明者数など高止まりの状況にあり、2月7日に設定された宣言解除予定日の解除は難しいとの見方が大勢を占めています。会場の「東京六甲クラブ」も閉鎖されており、このような状況での謡会開催は困難と判断し、2月27日予定の例会も引き続き「中止」とさせていただきます。

3月24日 首都圏1都3県を対象に発出された「緊急事態宣言」が3月21日までで解除され、謡会開催時の参加可能者が5名となりましたので、1年ぶりに謡会を開催いたします。但し、参加人数を勘案して、通常5曲の素謡を3曲に削減し、短時間で感染対策を十分に配慮しての開催となります。

3月27日 1年ぶりの例会を開催しました。参加予定者の内1名が欠席となったため、4名での開催となりましたが、東京六甲クラブの利用ルールに則り、感染予防に万全の注意を払いながら、「千手」「西行桜」「小鍛冶」の3番の素謡を楽しみました。同好の仲間と一堂に会して謡う謡曲はやはり格別の感がありました。

「能・謡ひとくちメモ」は「西行桜」に因んで第28話「能謡への近づき」と第33話「復曲『箱崎』のこと」を配布しました。

4月5日 4月例会の参加可能者が5名に満たないことが確認されたため、4月例会は中止と致します。なお、5月例会については4月下旬にコロナの感染状況等を踏まえて、会員各位に出欠の予定を確認の上開催の是非を決定致します。

4月25日 本日、東京都に第3回目の「緊急事態宣言」が発出されました。期限は一応5月11日ですが、専門家のコメントや過去2回の実例から判断して、延長の可能性も高いと推定されます。「緊急事態宣言」期間中は、会場の「東京六甲クラブ」は閉鎖されて使用が出来ません。このような状況での謡会開催は困難と判断し、5月22日予定の例会も4月例会に続いて「中止」とさせていただきます。

なお、2018(平成30)年の第31回から有志で参加してきました「全国大学学生・OB・OG能楽連合会」主催の謡会(第31・32回謡会に参加、昨年2020年は同連合会が謡会を中止)につき、同連合会の幹事より本年度の第33回謡会開催(7月24日予定)の案内がありましたが、新型コロナウイルスの感染状況及び東京凌霜謡会の開催状況・会員の参加状況を勘案して、今回の連合会謡会への参加は見合わせることにしました。

5月28日 東京都の「緊急事態宣言」は6月20日まで再延長されます。7月の東京オリンピック開催を目前に控え、再々延長の可能性もありますので、6月26日予定の6月例会も引き「中止」とさせていただきます。

7月中には、高齢者に対するコロナワクチンの第2回接種が完了する予定で、これに伴い感染拡大も収束に向かうものと思われまますので、7月例会(7月24日予定)は例会再開の方向で準備したいと思ひます。

6月下旬にコロナの感染状況等を踏まえて、会員各位に出欠の予定を確認の上、開催の是非を決定致します。

6月30日 東京都の3度目の「緊急事態宣言」は6月20日に一旦解除されましたが、代わって7月11日まで「まん延防止等重点措置」対象区域に指定されました。同時にインド株やデルタプラス株の拡散に伴い新規感染者数は増加に転じています。7月例会は7月24日に予定しておりますが、オリンピックの開会を目前にして4度目の「緊急事態宣言」発出の可能性もありますので、**7月例会も中止**といたします。

なお、8月例会(8月21日予定)につきましては、高齢者への第2回目のワクチン接種の効果が出ると言われる2週間以上経過している時期になります。7月下旬にコロナの感染状況等を踏まえて、会員各位に出欠の予定を確認の上、開催の是非を決定致します。

7月25日 7月11日期限の東京の「まん延防止等重点措置」は、4度目の「緊急事態宣言」(期限=8月22日)に変更されました。状況が好転すれば期限前解除もあり得ますが、現状の感染拡大状況に鑑みれば、その可能性は極めて小さいと思われまます。「緊急事態宣言」発出中は「東京六甲クラブ」が閉鎖されますので、**8月例会(8月21日)も中止**とさせていただきます。

なお、9月例会(9月25日予定)につきましては8月下旬にコロナの感染状況等を踏まえて、会員各位に出欠の予定を確認の上、開催の是非を決定致します。

8月27日 新型コロナデルタ株の急激な感染拡大に伴い、東京の「緊急事態宣言」は9月12日までに延長されましたが、その後も若年層を中心に連日過去最高の新規感染者数を記録しています。また、ワクチン2回接種者の「ブレークスルー」感染の事例も発生しています。状況が好転すれば期限前解除もあり得ますが、現状の感染拡大状況に鑑みれば、その可能性は極めて小さく、少なくとも「外出制限」等の要請は引続き継続されるものと思われまますので、このような状況では謡会開催は不適切と判断し、**9月例会(9月25日)も中止**とさせていただきます。

なお、10月例会(10月23日予定)につきましては9月下旬にコロナの感染状況や政府・東京都による行動指針等を踏まえて開催の可否を判断して、開催の是非を決定致します。開催可能と判断した場合は、会員各位の出欠予定を確認の上「5人以上の参加」が見込まれれば、東京六甲クラブの運営ルールに基づいて開催いたします。

9月30日 新型コロナデルタ株の新規感染者数等の急激な縮小に伴い、全国の「緊急事態宣言」は9月30日を以ってすべて解除されました。10月には行動制限緩和のための実証検証が行われ、順次移動・飲食等の行動制限が緩和される見通しです。月例会は本年3月の小人数での開催を除けば、令和2年3月例会以降1年半以上中止を余儀なくされていましたが、10月例会(当初10月27日予定)を11月6日(土)に変更のうえ、会場の東京六甲クラブの運用ルールに則った開催を会員の皆さんに打診したところ、7名の参加希望がありましたので、日程の変更及び「大社」を割愛して総所要時間を短縮して開催することにしました。11月例会以降は特段の状況変化がなければ当初の予定通り、11月27日・12月25日に開催の予定です。

11月6日 10月例会(当初10月27日予定)を11月6日(土)に変更のうえ、会場の東京六甲クラブの運用ルールに則って開催しました。参加者6名で、予定の4曲を謡い上げました。長期間の例会中止に関わらず、参加者の皆さんの謡は以前にも増して力強く、同好の士が一堂に会して謡うことは格別の感がありました。世話人から中止期間中の状況についての報告(会員各位の状況、大学能楽部の現状、関西の凌霜謡会会長前田さんのご逝去、オンライン謡会の活動状況等)を行い、参加者との意見交換を行いました。

恒例の「能・謡 ひとくちメモ」は今回の曲目「砧」に因んで、(第18話)「座敷三番の名盤の思い出」を配布しました。

また、2022年の「年間番組予定表」(案)を配布しました。本年中に開催(または開催予定)の3月および10~12月を除き、基本的には2021年度の曲目を踏襲しました。11月27日まで会員各位からのご意見を待って、確定の予定です。11月例会以降は特段の状況変化がなければ、感染対策に十分配慮して11月27日・12月25日に開催の予定です。

12月2日 8名の参加を得て11月例会を11月27日(土)に開催しました。前回同様、東京六甲クラブの運用ルールに則り、十分な感染対策のもとで、予定の5曲を謡いました。再会後初参加の方もいるため、前回と重複する部分もありましたが、中止期間中の関連団体の状況報告や会員の活動状況等の報告がありました。「能・謡ひとくちメモ」は、(第32話)「謡曲と場所~舞台になった地域一覧」を配布しました。2022年の「年間番組表」については、前回以降特段の意見がありませんでしたので、前回配布の(案)で確定します。

12月30日 12月25日(土)に6名の参加を得て12月例会を開催しました。前回同様、東京六甲クラブの運用ルールに則り、十分な感染対策のもとで予定の5曲を謡い、令和3年の謡納めとしました。「能・謡ひとくちメモ」は、当日の番組「和布刈」「景清」に因め、(第25話)「九州に関係ある謡曲」を配布しました。併せて、2022年の「年間番組表」及び現時点での「東京凌霜謡会会員名簿」を配布しました。コロナの変異株「オミクロン」の感染拡大の不安の中、お互いの健康を願い令和4年1月例会での再会を確認し合って解散しました。